

令和5年度 学校自己評価（中間評価）前期の成果と課題

25長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による中間評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

解答総数：72

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
1	学校づくり 新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育およびSSH 5期のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	信大とのSTEAM連携、信大工学部実習、海外研修等昨年度には無かった大きな取り組みを企画・実行できている。 他校との交流（中学）	後期は海外研修の実行、次期申請等重大な企画があるので、しっかり行いたい。 一貫校の強みや独自カリキュラムの再確認。今後も他校から学んでいきたい。（中学）	19	43	9	0	77.4
2	キャリア教育 キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	夏期休業中には各教科、個人のレベルに応じた補習を7日間実施した。ほぼ全員が補習に参加し、意欲的に取り組む様子が見られた。（高3） 外務省の高校講座が実施できたため、「キャリア講演会」「つくばサイエンスツアー」「屋代ミニ大学」等の行事を例年とは少し変更したが、生徒の進路希望に添うように実行できた。（高2） 文理それぞれの進路講演会を実施。社会で活躍する本校OBの講演を聴き、進路に対する意識を深めることができた。（高1） 夏休みのジョブシャドウイング、6月と9月のキャリア講演会を実施することで進路を考える機会を提供できた。また、その経験が学習への意欲を高める結果につながった。（高1） 学年行事「千曲市地域探索（1年）」「校外課題探究学習（2年）」「卒業探究学習（3年）」を実施した。（中学） BYOD 一人一台端末導入。	9月からの朝・放課後・土曜補習への参加や1棟での自主学習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。（高3） 学校行事や夏休みのオープンキャンパスを通して生徒は自分の進路について考えることができた。自分の進路を考えた上での科目選択が行えるように面談等を通して指導していく。また、自分の進路実現に向けて学習に取り組むよう促す必要がある。（高2） 文理選択と2・3年次への繋ぎの検討。（高1） 文理選択などの指導を通じて、2年次以降の学習へスムーズにつながるよう指導・支援することが大切である。（高1） コロナによる規制が緩和されているため、さらに体験的な学習の幅を広げていきたい。（中学） 全学年がタブレット端末を持つようになり、ICT研修などを行いながら各教科・科目試行錯誤を重ねている。	26	38	6	0	79.9

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
2	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	節目節目で学年集会(4月、6月、8月の3回実施)を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。また、前期は学年通信を15回発行して、必要な情報を届けている。(高3)	模試、共通テスト、個別試験、推薦に関する情報を更にきめ細かく発信していく。(高3)	30	33	6	0	80.2
		学年通信・進路だより・学級PTA・保護者説明会・学年集会等を通じて学校行事、進路・学習に関わる情報の提供ができた。(全学年)	更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深めたい。(全学年)					
		学年通信、学年PTAを通してキャリアに関する情報を発信した。また、全学年保護者を対象に「進路研修会」を実施した。(中学)	生徒・保護者に対して進路情報を適切に発信するとともに、生徒に将来の自分について考える場を積極的に設けていきたい。(中学)					
		進路研修会8月26日(中学)	大学入試、本校実績を発信できた。学力推移調査を絡めて発信したい。					
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し目標を下げないように指導している。(高3)	模試の結果をふまえつつ、あきらめずに最後まで頑張らせたい。(高3)	25	42	3	0	80.6
		学年会での各教科の取り組みの共有、生徒の学力状況・進路目標の共有と対策を検討した。(高2)	高い志望を持たせながら学力の向上を図りたい。(高2)					
		進路講演会を実施して、大学選択や職業選択の視野を広げるように努めた。また、文理選択説明会等でも話の中で、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)	各成績層に応じた取り組みの重視。および、2年次以降の進路指導を通じて、全教科にわたる総合的学力の養成をめざすよう指導を行いたい。(高1)					
		教科情報の共通テスト対策については、補充授業・自習ICT教材などの活用を行い、対応ができた。	「思考力、判断力、表現力等」を問う問題について、引き続き学力向上を目指したい。					
		水曜日の放課後に「CSS」を開設し、自主的な学びの場として生徒のサポートに充てた。学力推移調査(国数英)を実施し、生徒の学習状況や学力状況を把握し、面談や学習指導の拡充を行った。数学、英語の特別講座を同窓会館で実施した。(中学)	引き続き生徒が主体的に学習に取り組む環境づくりに注力していきたい。(中学)					
		学力推移調査(4, 8月)(中学)	結果を個人面談で活用した。学年・学校全体の傾向を分析したい。(中学)					
	学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	定期考査や模試分析を通して各科目の学力を把握し、生徒の指導に対処してきた。(高3)	生徒の精神面も支援しつつ、学力の伸張を図っていきたい。(高3)	23	44	3	0	79.9
		面談や模擬試験等の機会を利用しながら、志望学部・大学等を考えさせる指導・支援ができた。(高2)	修学旅行明け、11月以降スムーズに受験体制へ移行できるようにしたい。(高2)					
		各考査の成績やスタディーサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。(高2・高1)	指導・支援を継続していく。(高2・高1)					
		学習成績や面談等を通じて生徒の実態を把握し、学年全体としても改善すべき点を確認、検討した。(高1)	生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。(高1)					
		各教科では、考査後に補習を設け学力定着を行うとともに、個別の相談や指導を行った。通知表のほかに「学びの軌跡」を発行し、生徒が自分で学習の定着状況を振り返ることで自己調整しながら学習を進めていくことができるようにした。(中学)	考査や学力推移調査のほかに、授業内に行うチェックテストの結果を分析することで、さらに「指導の個別化」と「学習の個性化」を進めていく。(中学)					
学力推移調査(4, 8月)(中学)	ベネッセに分析を依頼し実態把握をした。第2回の結果についても分析したい。(中学)							

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標	
				A	B	C	D		
3	教科指導・授業改善 探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう、ICT活用のための研究を進め、教科指導の研鑽に努めることができたか。	校内授業公開の実施5/24-6/9	各教科ごとに共通参観授業を決めて意見交換。ICT機器を中心に授業の工夫を共有出来た。	32	33	6	0	83.0	
		職員研修会の開催6/14	ベネッセ伊藤涼介氏による新課程入試説明会を実施。多忙な教師にとっては貴重な勉強会となった。第2回は11月15日に実施。						
		職員ICT研修会の実施6/14	Googleスライドの共有と活用について担当中村先生より説明。様々な形で職員にICTでの学びに関する情報を提供出来た。						
		授業充実のためのアンケート実施9/15-9/30	質問を観点別評価を取り入れた内容に一部変更、自由記述アンケートは授業内で実施。教科、学年、項目によるバラツキの改善。						
		主事訪問（8月）、公開授業（5，8月）（中学）	全職員で指導案作成、授業研究ができた。指導していただいた内容を実践したい。（中学）						
4	生徒指導 通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	5月「生活安全講話」「交通安全講話」実施（全校） ヘルメット着用義務について、学年集会などで呼びかけた。 7月「性被害防止キャラバン」（高1） 5月・7月・9月「交通安全該当指導」実施（職員）	4月、5月、6月は自転車の接触事故が多い。毎年、年度初めの呼びかけや該当指導が重要。いずれも、大きな事故には至っていない。	30	39	2	0	83.7	
		交通安全街頭指導（中学）	生徒の横断歩道の通学等指導できた。（中学）						
		SNSでの人権侵害、いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	7月「いじめアンケート」の実施。個別面談の実施。（全学年）						
	生徒支援	個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	担任やSC外部機関と連携し、個別の状況に応じた支援を行うことができた。 支援会議、家庭訪問（中学）	引き続き、生徒や保護者に寄り添う支援を続けていきたい。 早期に行動に移すことができた。（中学）	36	33	0	0	84.4
		人権教育 すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	9/12職員人権研修会「子どもと性暴力」[CAP教職員ワークショップ冊子参照] (CAPながの矢島宏美さん他)を実施。 全校人権学習の準備（中学） 道徳、学校生活アンケート、アセス（中学）	子どもは「悪くない」(No, Go, Tell)の原則を職員全体で共有でき、有意義であった。PTA対象研修11月。高1生徒対象研修2月実施予定。 コロナ禍前の福祉体験等の復活を検討。（中学） アセス結果を学級指導等に活かした。今後もアンテナを高く指導にあたりたい。（中学）					

評価項目	評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
				A	B	C	D	
5	情報発信 本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	4月「学校要覧」作成。5月「第1回授業公開」実施。6月「中学校説明会」実施。「学校案内パンフレット」作成。7月「中学生体験入学」実施。8月「第2回授業公開」実施。「ホームページ(ハトニワ)」週1回以上更新。屋代高校前駅ホーム「屋高の窓」月一回程度の更新。	学校の様子はホームページのハトニワを通じて情報発信を行った。4年ぶりに一般公開をした文化祭には約3800名の方にご来場いただいた。今後も学校の取り組みや様子を幅広く伝えていきたい。	27	39	5	0	81.6
		公開授業、附属中通信、各種報道への依頼(中学)	公開授業アンケートの結果は良好といえる。宿泊学習等の活動結果を発信したい。(中学)					
全体	生徒会 質実剛健の気風を大切に、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導・支援ができたか。	生徒総会2回、一斉委員会1回開催、週1回定例役員会を開催。さらに行事ごとに必要に応じて各委員会ごとに臨時委員会を開き、生徒の自主的活動を支援できた。班長会5回、班室清掃3回行い、班活動の活性化を支援した。	引き続き、中高の協力体制や連携のあり方を模索して行きたい。	30	36	4	0	81.9
		鳩祭へ向けて一斉係会3回実施のほか、昨年と異なる状況へ対応するために正副鳩長と係職員の打ち合わせ会を週1回実施。	来年度の鳩祭へ向けて、新役員との打ち合わせ会を実施し、内容・分担の見直しの検討を始めている。					
	生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をする事ができたか。	生徒会係と生徒会役員の密な連携を図ることができた。(高1)	会則を確認させ、逸脱した運営をしないよう助言する。	31	40	0	0	84.7
		全校生徒会も位置づき、鳩祭でも自主活動が充実した。(中学)	全校生徒が生徒会活動に関心を持ち、参加できる機会を増やしたい。					
校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	鳩祭は一般公開に、クラスマッチは通常開催として、一般の方々をもてなしたり、互いに応援しあったりして、活気ある行事を行うことができた。(高1)	各委員会の活動を明確にしたい。(中学)	19	43	8	0	76.7
		今年度は「参画」をテーマに生徒が活動している。(中学)	生徒会と連携し、引き続きワックスがけ、モップ交換を行う。また、定期的な用具の点検、補充、古紙等のリサイクルを行う。					
		日常清掃の際に、生徒と職員がゴミ集積所で分別の確認をしている。古紙等の資源物は買い取ってもらい、生徒会の収入としている。職員にも清掃分担を割り振り、清掃がきちんと行われるよう日常的に指導をしている。	11月に落ち葉等の外掃を重点的に行う。					
		ワックスがけ(4/21)、モップ交換(6/2,7/14)、資源回収(4/10,5/23,7/3)を行った。清掃用具の補充は二ヶ月に1回程度行っている。	年度当初のきまりを全校で確認したい。(中学)					
		清掃用具点検(清掃委員会)。清掃前の呼びかけ(手ぬぐい、無言)。(中学)						

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点になるように換算しました。 [換算式] 25 × (4点×Aの数+3点×Bの数+2点×Cの数+1点×Dの数) ÷ 総数